

加瀬ちひろ（動物行動）・山本誉士（時空間解析）・池田裕美（行動栄養）

研究の背景

動物園・水族館には、動物福祉に配慮した管理を行う責任・種の保存・調査研究・教育普及などの役割があります。本プロジェクトは、**埼玉県こども動物自然公園、天王寺動物園、神戸どうぶつ王国、すみだ水族館の4つの施設と共同研究**を行うことで、科学的根拠に基づいた動物たちの「より良い暮らし」の提供を目指し、動物園・水族館の発展を支えます。

○動物にストレスのかからないふれあいイベントの提案

ふれあいは、子どもたちに対する命の教育に加え、動物への関心や動物飼育に対する前向きな姿勢を促進する効果などがある一方、動物にとってストレスとなる可能性も指摘されています。本研究では多角的な手法で動物への負担が少なく、人にとって教育効果の高いふれあい方法を探ります。



○動物の行動と栄養状態の調査

動物がストレスを受けた場合、通常と異なる行動パターンや栄養代謝を示します。しかしながら、動物園・水族館において飼育されている動物たちはその「通常」の状態すら未解明な動物がいます。動物たちの状態を知ることが、異常な行動を発見することに繋がります。



アプローチ

動物園・水族館に実際に赴き、研究打合せやデータ収集を行います。動物の行動観察や加速度口ガーによる活動量計測、来園者へのアンケート調査、生体サンプルの分析、心拍計などで得たデータの解析を行います。

期待される結果

動物園・水族館が持つ役割について実践を通じて学びます。また、基本的な行動解析能力や基礎的なデータ解析力、作図やスライドで結果をアウトプットする力、ディスカッション力を身につけることが期待されます。

募集方法

募集人数：6～12名 選考方法：対面での面談により選考

※取り組むテーマについては、相談しながら選んでもらう予定です